

# 2021年卒 マイナビ大学生のライフスタイル調査 集計結果報告



2020年2月

- 調査期間: 2019年11月25日(月)～2019年12月23日(月)  
(前年調査:2018年11月26日(月)～2018年12月24日(月))
- 調査方法: 2019年11月25日時点のマイナビ2021会員の大学生・大学院生にWEB DMを配信。  
2019年11月27日に過去のアンケート回答者にWEB DMを配信。
- 有効回答数: 4,850名 [内訳:文系男子 825名 理系男子 754名 文系女子 2,306名 理系女子 965名]

## 【INDEX】

### ■1:スマートフォンの利用状況

- (1)保有している携帯電話の種別をお答え下さい。複数保有している方は主に使っているものについてお答えください。
- (2)スマートフォンは就職活動のどのような場面で役立つと思いますか。役立つと思う場面をすべて選択してください。(複数回答)
- (3)あなたのスマートフォンに入っていて、実際に使っているアプリを次の中からすべて選択してください。(複数回答)
- (4)スマートフォンを1日平均何分使っていますか。
- (5)スマートフォンを使って見る動画の長さは平均で1日何分くらいですか。
- (6)自分で動画を撮影し、公開したことはありますか。また公開することで収入を得たことがありますか。
- (7)あなたが最もよく利用する支払方法を選択してください。
- (8)あなたが最も利用したい支払方法を選択してください。
- (9)その支払方法を利用したい理由に最も当てはまるものを下記より選択してください。

### ■2:ソーシャルメディア・SNSの活用方法

- (10)よく利用するソーシャルメディア・SNSのサービス名を教えてください。(複数回答)
- (11)ソーシャルメディア・SNSについてお答えください。それぞれのサービスをどんな時に利用していますか。(複数回答)
- (12)LINEの利用開始時期を選択してください。使っていない場合は「利用したことはない」を選んでください。
- (13)あなたがソーシャルメディア・SNSでつながっている友人・知人のおおよその合計数(重複は一人と考える)を教えてください。
- (14)オンラインでのやり取りがきっかけ※で知り合った人とオフラインで会ったことはありますか。
- (15)就職活動においてFacebookなどの実名を伴ったソーシャルメディア・SNSを、どの程度活用したいですか。
- (16)就職活動におけるソーシャルメディア・SNSの活用方法はどのようなものにするつもりですか。(複数回答)
- (17)就職活動においてソーシャルメディア・SNSを活用したくない理由は何ですか。(複数回答)

### ■3:インターネットの利用用途、サブスク、コミュニケーションツール

- (18)インターネットをどんなことに利用していますか。(複数回答)
- (19)あなたはインターネットで「ものを売ったこと」がありますか。
- (20)以下のようなサブスクのサービスについて、「利用したことがある」「やってみたい」「興味がない」のいずれかを選択してください。
- (21)友人との主なコミュニケーションツールを選択してください。

### ■4:情報源としてのメディア、社会問題、サークル、楽しみ、現在の住まい

- (22)情報源として最も利用しているメディアはどれですか。
- (23)情報源として最も信頼度が高いメディアはどれですか。
- (24)以下に挙げる社会問題のうち、興味があるものをすべて選んでください。(複数回答)
- (25)あなたはサークルや部活動に所属していますか。所属している方はそのサークルや部活動の種類を選択してください。
- (26)あなたが観戦に行ったことがあるスポーツをすべて選択してください。(複数回答)
- (27)あなたの人生において優先度の高いものから2つを選んでください。(2つ選択)
- (28)あなたは今何に楽しさを感じていますか。(複数回答)
- (29)あなたは誰と一緒にいるときに最も楽しさを感じますか。
- (30)現在自宅住まいですか、一人暮らしですか。
- (31)就職した後は自宅住まい希望ですか、一人暮らし希望ですか。
- (32)前問の選択肢を選んだ理由について、下記より最も当てはまるものを選択してください。

### ■5:アルバイトについて

- (33)大学生になったらやりたいと思っていたアルバイトは何ですか。(複数回答)
- (34)あなたは定期的なアルバイトをしていますか。
- (35)アルバイトによる収入(定期的なもの以外も含む)は1ヶ月平均でいくらですか。
- (36)あなたはアルバイトで稼いだお金を何に使っていますか。(複数回答)
- (37)今、実際にやっている定期的なアルバイトは何ですか。(複数回答)
- (38)現在アルバイトは週に何日程度していますか。
- (39)現在何か所のアルバイトを掛け持ちしていますか。
- (40)アルバイトを掛け持ちしてる方、その理由として、以下より最も当てはまるものを選択してください。
- (41)あなたがアルバイトをしている時間は1週間の合計で何時間程度ですか。
- (42)ブラックバイトについてお聞きします。あなたは以下のような経験をしたことはありますか。(複数回答)
- (43)派遣社員として働いたことはありますか。当てはまるものを1つ選んでください。
- (44)アルバイト代や親からの仕送りなどのうち、あなたが1ヶ月に自由に使えるお金の、おおよその金額を教えてください。
- (45)あなたは投資(株、投資信託、FX、NISA、仮想通貨など)をしていますか。また、やってみたいと思いますか。

## ■6:旅行について

- (46)国内旅行の回数(大学1年生から現在まで。宿泊を伴うもの)
- (47)海外旅行の回数(大学1年生から現在まで。宿泊を伴うもの)
- (48)大学1年生から現在までに一人旅に何回行きましたか。

## ■7:大学生活について

- (49)学校には週何日通っていますか。
- (50)平均的な1日の授業(ゼミ・研究室含む)受講時間の合計はどの程度ですか。
- (51)ゼミ・研究室に所属していますか。
- (52)優(A)の数は取得した単位の何割くらいを占めていましたか。
- (53)高校生のとき最も得意だった科目と最も苦手だった科目を選んでください。
- (54)あなたが現在通っている大学について、大学入学時の入試経路であてはまるものを選んでください。
- (55)あなたのプログラミングスキルについて、以下よりあなたに当てはまるものをすべて選択してください。(複数回答)
- (56)あなたのファッションや身だしなみについて、周りの人からどのように言われることが多いですか。
- (57)あなたのファッションや身だしなみについて、自分自身でどのように思いますか。
- (58)あなたは髪を染めていますか(脱色を含む)。また、就活の時には黒く染め直すつもりですか。
- (59)あなたは自分を「オタク」だと思いますか。
- (60)自分は「オタク」だと思う人に質問です。あなたは何の「オタク」ですか。当てはまるものを最大3つまで選択してください。(複数回答)

## ■8:社会人の働き方に対するイメージ

- (61) 下記のような働き方をする「同性の社会人」「異性の社会人」について、それぞれあなたはどうか感じますか。
  - ◇ 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている
  - ◇ 指示された通り残業し、上司の信頼を得る
  - ◇ 時間内に仕事を終え、一切残業しない
  - ◇ 時間内に仕事を終え、積極的に子育てする
  - ◇ 子育てに専念するため育児休業を取得する
  - ◇ 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る

## ■9:現在と将来のライフスタイルのイメージ

- (62)以下の中からあなたが理想とする「将来の自分」像に最も近いものを選んでください。
- (63)結婚後の仕事に関してどのように考えていますか。
- (64)「共働きが望ましい」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (65)「主に自分の収入のみで生活するのが望ましい」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (66)「主に相手の収入のみで生活するのが望ましい」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (67)結婚をするならば、何歳ごろにしたいですか。
- (68)あなたの理想の夫婦像に最も近いものを選んでください。
- (69)子育てについて、あなたの考えに近いものを選んでください。
- (70)「育児休業を取って」子育てしたいと回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (71)「育児休業は取らない」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (72)子供は何人欲しいですか。
- (73)ここまで結婚や育児についての質問に回答する際、あなたが最も重視したのは次のうちどれですか

## ■10:両親・保護者とのコミュニケーションや就職活動との関わり方

- (74)ご両親または保護者の方からLINEで1週間に何回くらいメッセージが届きますか。
- (75)あなたからは、ご両親または保護者の方にLINEで1週間に何回くらいメッセージを送りますか。
- (76)ご両親または保護者の方は、あなたの就職活動に対してどの程度関心を持っていますか。
- (77)あなたと、あなたのご両親または保護者の方の間で、以下のようなことはどのくらい行われていますか。
- (78)ご両親または保護者の方の、あなたの就職活動に対する関わり方について、あなたはどのように感じていますか。
- (79)ご両親または保護者の方以外の方で、あなたの周りに自分自身の仕事の内容について話してくれる社会人の方はいますか。
- (80)前問に該当する社会人の方は合計何人いますか。

## ■11:就職活動や働くということについて

- (81)あなたはインターンシップに参加したことはありますか、また今後参加するつもりですか。
- (82)就職活動におけるあなたの最大の武器は何だと思いますか。
- (83)あなたにとっての就職活動を恋愛に例えると、以下のうちどれに最も近いですか。
- (84)次の選択肢のうちあなたに欠けていると思うものは何ですか。(複数回答)

### ◆集計方法について

全体の数値を算出するにあたり、文理男女別の構成比を2021年3月卒業予定の大学生・大学院生の構成比と等しくする為、文部科学省の学校基本調査を基に、ウエイトバック集計を行っている。基準数値は平成30年度学校基本調査(2019年8月公表)の大学3年生・院1年生在籍数を参照し、文理男女比を算出している。  
※ウエイトバック集計とはアンケート回答者の属性構成比率が実際の属性比率と乖離している場合、構成比に合わせるように重み付けして集計すること。

※調査結果は、小数点第2位を四捨五入しております。そのため、グラフ及び表の和が100.0%にならない場合がございます。予めご了承ください。

### ■ 日本資料について □ ■

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社 マイナビ 社長室 リサーチ&マーケティング部

TEL : 03 (6267) 4571 / E-mail : myrm@mynavi.jp

■ 学生の属性データ

	回答数	比率		回答数	比率		回答数	比率
男子	1,579	32.6%	文系	3,131	64.6%	文系男子	825	17.0%
女子	3,271	67.4%	理系	1,719	35.4%	理系男子	754	15.5%
総計	4,850	100.0%	総計	4,850	100.0%	文系女子	2,306	47.5%
						理系女子	965	19.9%
						総計	4,850	100.0%

	計	比率	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	男子	女子	文系	理系
大学	4,273	88.1%	819	441	2,281	732	1,260	3,013	3,100	1,173
大学院	577	11.9%	6	313	25	233	319	258	31	546
総計	4,850	100.0%	825	754	2,306	965	1,579	3,271	3,131	1,719

■ 地域別分布データ

現住所地区	計	比率	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	男子	女子	文系	理系
北海道	174	3.6%	32	35	60	47	67	107	92	82
東北	236	4.9%	33	49	85	69	82	154	118	118
関東	1,834	37.8%	350	250	908	326	600	1,234	1,258	576
甲信越	111	2.3%	15	31	43	22	46	65	58	53
東海	586	12.1%	84	85	310	107	169	417	394	192
北陸	123	2.5%	11	36	47	29	47	76	58	65
関西	1,042	21.5%	202	122	529	189	324	718	731	311
中国	245	5.1%	33	41	111	60	74	171	144	101
四国	92	1.9%	11	20	37	24	31	61	48	44
九州	400	8.2%	53	83	172	92	136	264	225	175
海外	7	0.1%	1	2	4	-	3	4	5	2
総計	4,850	100.0%	825	754	2,306	965	1,579	3,271	3,131	1,719

■ 国公立・私立別分布データ

国公立地区別	計	比率	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	男子	女子	文系	理系
関東国公立	264	5.4%	29	77	82	76	106	158	111	153
関東私立	1,611	33.2%	324	181	846	260	505	1,106	1,170	441
関西国公立	248	5.1%	28	57	91	72	85	163	119	129
関西私立	805	16.6%	177	72	436	120	249	556	613	192
その他国公立	902	18.6%	71	262	302	267	333	569	373	529
その他私立	1,020	21.0%	196	105	549	170	301	719	745	275
総計	4,850	100.0%	825	754	2,306	965	1,579	3,271	3,131	1,719

■ 都道府県別分布データ

地域区分	都道府県	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	計	地域区分	都道府県	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	計	
北海道	北海道	32	35	60	47	174	関西	滋賀県	16	20	36	19	91	
	東北	青森県	6	5	10	10		31	京都府	35	18	106	36	195
		岩手県	3	9	9	7		28	大阪府	91	45	211	73	420
		宮城県	21	20	46	27		114	奈良県	39	28	135	38	240
		秋田県	-	8	3	7		18	兵庫県	20	8	33	18	79
		山形県	3	3	4	9		19	和歌山県	1	3	8	5	17
		福島県	-	4	13	9		26	鳥取県	-	5	2	7	14
関東	茨城県	6	14	31	11	62	中国	島根県	1	4	4	2	11	
	千葉県	8	3	16	10	37		岡山県	10	7	21	19	57	
	栃木県	10	3	20	10	43		広島県	16	17	57	24	114	
	群馬県	54	53	137	44	288		山口県	6	8	27	8	49	
	埼玉県	44	43	119	49	255		四国	徳島県	1	4	7	6	18
	東京都	125	71	342	127	665			香川県	4	4	6	4	18
	神奈川県	103	63	243	75	484			愛媛県	5	7	17	8	37
甲信越	新潟県	5	16	19	9	49	高知県		1	5	7	6	19	
	山梨県	4	5	12	6	27	九州		福岡県	27	45	82	45	199
	長野県	6	10	12	7	35			佐賀県	1	3	5	6	15
東海	岐阜県	12	7	30	17	66			長崎県	7	7	28	12	54
	静岡県	9	15	37	18	79		熊本県	3	11	21	11	46	
	愛知県	56	49	216	54	375		大分県	2	3	7	4	16	
	三重県	7	14	27	18	66		宮崎県	-	3	7	6	16	
北陸	富山県	2	12	12	8	34		鹿児島県	8	7	8	6	29	
	石川県	6	14	24	15	59	沖縄県	5	4	14	2	25		
	福井県	3	10	11	6	30	海外	海外	1	2	4	-	7	

# 【TOPICS】

## ◆スマホ決済アプリを「最も利用したい」学生は30.1%。前年の約3倍に急増

図1 最もよく利用する支払方法、最も利用したい支払方法（現金・カード・アプリ）

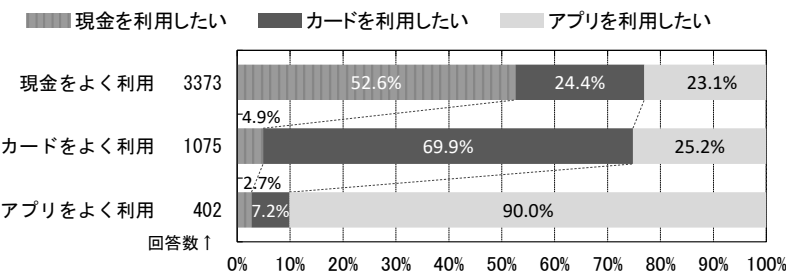
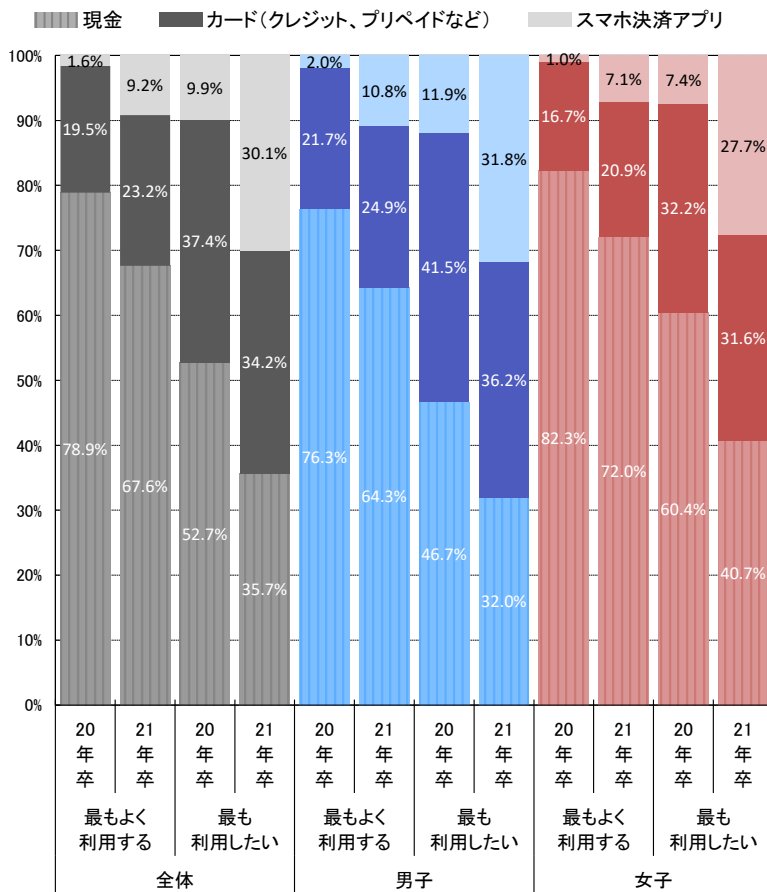


図2 その支払方法を利用したい理由（現金・カード・スマホ決済アプリ）

※「現金」を利用したい理由

n=1,837

	全体	男子	女子
1位 安心だから、信用できるから	76.5%	77.1%	75.8%
2位 慣れているから	64.4%	60.7%	68.3%
3位 いくら使ったか管理しやすい、無駄遣いを防ぐため	55.6%	50.0%	61.5%
4位 目に見えるから、価値が実感できる	54.5%	49.2%	60.1%
5位 多くの場所で利用できるから	30.9%	30.8%	31.1%

※「カード」を利用したい理由

n=1,602

	全体	男子	女子
1位 楽だから、簡単だから	80.3%	80.7%	79.7%
2位 便利だから	62.9%	62.2%	64.0%
3位 ポイントがたまるから	46.2%	40.5%	54.9%
4位 小銭が増えない、財布が軽くてすむ	27.3%	25.2%	30.5%
5位 ATMに行くのが面倒	25.6%	22.9%	29.7%

※「スマホ決済アプリ」を利用したい理由

n=1,411

	全体	男子	女子
1位 楽だから、簡単だから	80.5%	80.3%	80.7%
2位 便利だから	68.7%	69.3%	67.8%
3位 ポイントがたまるから	50.9%	47.4%	56.3%
4位 消費税増税に伴うポイント還元制度があるから	28.4%	26.5%	31.4%
5位 小銭が増えない、財布が軽くてすむ	27.0%	25.3%	29.6%

スマホ決済アプリについては、実際に使っている割合、支払方法として最もよく利用している割合、最も利用したい割合が、いずれも急増した。

実際に使っている割合は35.3%（前年比22.1pt増）で、前年に比べて一気に普及が進んだ。文理男女別で最も高い文系男子では39.8%と4割近かった。男女別では、男子が36.6%（前年比21.3pt増）、女子が33.5%（前年比23.1pt増）と男子の方がやや高い割合だった。

スマホ決済アプリを利用している割合や、利用したい割合については、「現金」「カード（クレジット、プリペイドなど）」「スマホ決済アプリ」の中から、「最もよく利用する」支払方法と、「最も利用したい」支払方法を選択してもらった形式で調査を行った。

スマホ決済アプリは、「最もよく利用する」割合では9.2%（前年比7.6pt増）と、前年より大きく増加したものの1割に満たず、「現金」の67.6%（前年比11.3pt減）、「カード」の23.2%（前年比3.7pt増）とはまだ大きな差があった。しかし、「最も利用したい」割合では、30.1%（前年比20.2pt増）と前年の約3倍となり、「現金」の35.7%（前年比17.0pt減）、「カード」の34.2%（前年比3.2pt減）とあまり差がなくなった。スマホ決済アプリを「最もよく利用する」学生では、スマホ決済アプリを「最も利用したい」割合は90.0%となり、今後利用できる場所が増えればさらに普及が進むと考えられそうだ。男女別で見ると、スマホ決済アプリを「最もよく利用する割合」は男子10.8%、女子7.1%、「最も利用したい」割合は男子31.8%、女子27.7%で、いずれも男子の方が割合が高い。他の支払い方法では、現金を「最も利用したい」割合で、男子32.0%、女子40.7%と差が大きく、女子は現金派が多いという結果となった。

最も利用したい支払い手段として「現金」「カード」「スマホ決済アプリ」のそれぞれを選択した学生に、選択理由を聞いた。

「現金」を最も利用したい理由では、「安心だから、信用できるから」（76.5%）が最も高い割合で、「慣れているから」（64.4%）「いくら使ったか管理しやすい、無駄遣いを防ぐため」（55.6%）「目に見えるから、価値が実感できる」（54.5%）がそれに続いた。

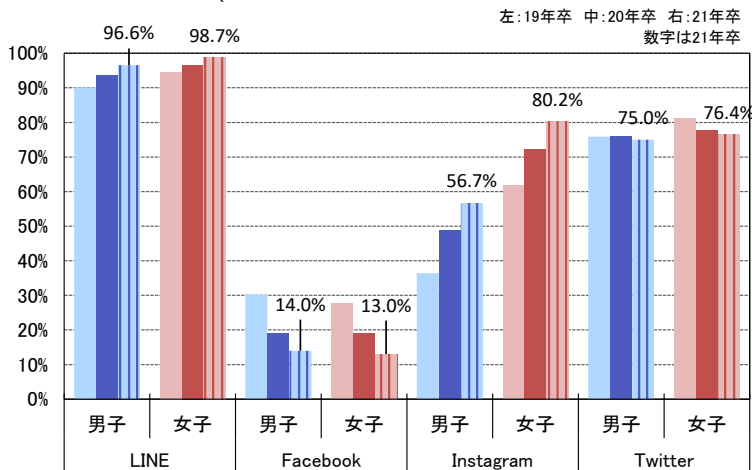
「カード」を最も利用したい理由と「スマホ決済アプリ」を最も利用したい理由は1位から3位まで同じだった。最も高い割合だったのは「楽だから、簡単だから」（「カード」80.3%、「アプリ」80.5%）で、2番目は「便利だから」（「カード」62.9%、「アプリ」68.7%）、3番目は「ポイントがたまるから」（「カード」46.2%、「アプリ」50.9%）だった。

男女別で見ると、現金派では「いくら使ったか管理しやすい、無駄遣いを防ぐため」（女子61.5%、男子50.0%）「目に見えるから、価値が実感できる」（女子60.1%、男子49.2%）の2つの理由で、女子の方が男子より10pt以上割合が高かった。カード派・アプリ派では「ポイントがたまるから」を選択した割合が女子の方が男子よりかなり高かった。

「現金」を利用したい理由と、「カード」や「アプリ」を利用したい理由は対照的だ。「カード」「アプリ」派が利便性やポイントのお得感など現実的、実利的な理由を挙げたのに対し、「現金」派は安心感や慣れ、目に見えるなど、経験的、感覚的な理由を挙げた。これを見ると、今後アプリの普及が進んでも、ある程度「現金」派は残るのではないと思われる。

## ◆Instagramをよく利用する割合がさらに増加し、女子ではTwitterを上回る

図3 よく利用するSNS (複数回答・割合が高いものを抜粋)

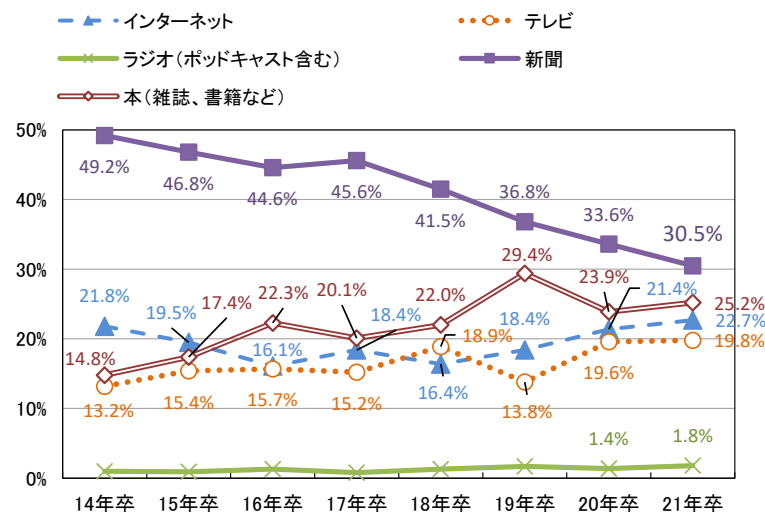


「よく利用するSNS」について聞いたところ、「Instagram」をよく利用する学生の割合は前年よりさらに増加し、男子の6割弱、女子のほぼ8割だった(男子 56.7%、前年比7.8pt増:女子 80.2%、前年比7.9pt増)。「Facebook」をよく利用する学生はさらに減った(男子 14.0%、前年比5.0pt減:女子 13.0%、前年比5.9pt減)。「LINE」はわずかに増加した。「Twitter」はわずかに減少し、女子では76.4%(前年比1.2pt減)と、「Instagram」の割合を下回った。

「Youtube」をよく利用する学生は男子43.7%、女子46.0%だった。「Slack」は男子5.1%、女子4.0%だが、理系の情報系の学生では、学部生の17.7%、院生の22.1%がよく利用すると回答した。

## ◆「新聞」が8年連続で「最も信頼度が高いメディア」となるも、割合は過去最低

図4 情報源として最も信頼度が高いメディア



情報源として「最も利用しているメディア」について聞いたところ、圧倒的に割合が高いのは「インターネット」(87.8%、前年比2.5pt増)で、その割合は14年卒の調査開始以来最高だった。

情報源として「最も信頼度が高いメディア」について聞いたところ、最も割合が高いのは8年連続で「新聞」(30.5%、前年比3.1pt減)だった。しかし、その割合は14年卒の調査開始以来最低だった前年をさらに下回った。7年前(49.2%)に比べると、18.7pt減ったことになる。

一方、「本(雑誌、書籍など)」(25.2%、前年比1.3pt増)「インターネット」(22.7%、前年比1.3pt増)という回答はそれぞれ前年よりわずかに増加した。「テレビ」(19.8%、前年比0.2pt増)はほぼ前年並みだった。

## ◆「いじめ・教育問題」に興味がある割合が増加。「地球温暖化」の割合はあまり高まらず

図5 興味のある社会問題 (複数回答)

	21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒
文系男子					
1位 高齢化社会・介護問題	37.8%	33.6%	38.3%	44.6%	42.6%
2位 非正規社員・労働問題	36.5%	35.9%	32.5%	34.3%	37.6%
3位 いじめ・教育問題	35.8%	26.9%	-	-	-
4位 国際政治問題・民主化運動	35.5%	32.6%	37.1%	40.5%	41.4%
5位 格差社会	31.6%	29.5%	32.8%	39.7%	39.0%
理系男子					
1位 地球温暖化	41.5%	40.6%	38.4%	44.5%	45.1%
2位 高齢化社会・介護問題	36.9%	34.6%	36.3%	41.0%	37.8%
3位 国際政治問題・民主化運動	32.9%	27.6%	34.5%	36.2%	38.1%
4位 いじめ・教育問題	30.9%	23.7%	-	-	-
5位 年金問題*	30.6%	-	-	-	-
5位 あおり運転・高齢ドライバー*	30.6%	-	-	-	-
文系女子					
1位 少子化・働く女性支援	60.1%	59.0%	64.7%	68.5%	67.5%
2位 いじめ・教育問題	46.9%	36.6%	-	-	-
3位 LGBT	40.1%	35.8%	32.9%	23.8%	18.9%
4位 高齢化社会・介護問題	37.8%	34.8%	39.5%	43.9%	44.1%
5位 SNS被害*	36.9%	-	-	-	-
理系女子					
1位 少子化・働く女性支援	52.1%	59.0%	61.2%	66.8%	66.0%
2位 高齢化社会・介護問題	39.5%	37.7%	44.4%	52.3%	53.2%
3位 地球温暖化	39.2%	37.4%	36.1%	39.9%	41.8%
4位 いじめ・教育問題	33.9%	29.4%	-	-	-
5位 年金問題*	30.6%	-	-	-	-

26の社会問題の中から興味のあるものをすべて選択してもらった。

文系男子で最も割合が高いのは「高齢化社会・介護問題」(37.8%、前年比4.2pt増)で、これは他の分類の学生でもそれぞれトップ5にランクインし、かつ割合が増加している(理系男子2位:2.3pt増、文系女子4位:3.0pt増、理系女子2位:1.8pt増)。

理系男子の1位は5年連続で「地球温暖化」(41.5%、前年比0.9pt増)だったが、昨年、COP24開催などで大きな話題になったにも関わらず、それほど興味がある割合は増えなかった。理系女子では3位(39.2%、前年比1.8pt増)だが、文系では男子7位、女子8位とあまり関心が高くない。

文系女子・理系女子の1位はともに5年連続で「少子化・働く女性支援」(文系女子 60.1%、前年比1.1pt増:理系女子 52.1%、前年比6.9pt減)だった。

文系男子の3位・文系女子の2位の「いじめ・教育問題」は前年より割合が大きく増えた(文系男子:35.8%、前年比8.9pt増、文系女子:46.9%、前年比10.3pt増)。理系の学生でも同様に割合が増えている(理系男子4位:7.2pt増、理系女子4位:4.5pt増)。

今年新しく追加した社会問題では、「年金問題」が理系男子の4位(30.6%)、理系女子の5位(30.6%)に入り、「あおり運転・高齢ドライバー」は理系男子の5位(30.6%)、「SNS被害」は文系女子の5位(36.9%)だった。

# ◆サブスク利用の1位、男子は動画、女子は音楽。今後は女子で洋服、コスメの利用が広がりそう

図6 サブスクのサービスで、利用したことがあるもの、やってみたいもの

男子			
「利用したことがある」		「利用したことがある」+「やってみたい」	
1位	動画配信 (Netflix、Hulu等)	47.0%	70.8%
2位	音楽配信 *注1	46.9%	65.8%
3位	ゲーム (PlayStation Now等)	28.7%	51.4%
4位	雑誌、書籍、電子書籍 *注2	20.3%	47.2%
5位	洋服	13.3%	38.5%
6位	宿泊	12.1%	37.2%
7位	飲食 *注3	11.0%	36.3%
8位	学習 (英会話等)	8.8%	36.2%
9位	スポーツクラブ、ジム、ヨガ	8.6%	34.6%
10位	コンタクトレンズ	7.8%	27.0%
女子			
「利用したことがある」		「利用したことがある」+「やってみたい」	
1位	音楽配信 *注1	48.8%	71.5%
2位	動画配信 (Netflix、Hulu等)	41.6%	68.9%
3位	雑誌、書籍、電子書籍 *注2	18.8%	48.4%
4位	ゲーム (PlayStation Now等)	13.0%	42.9%
5位	洋服	9.9%	38.8%
6位	飲食 *注3	9.5%	37.2%
7位	コンタクトレンズ	9.2%	37.0%
8位	宿泊	9.2%	34.1%
9位	写真プリント	9.1%	31.2%
10位	学習 (英会話等)	7.8%	29.6%

\*注1 Spotify、Apple Music、LINE MUSIC等

\*注2 dマガジン、Kindle Unlimited等

\*注3 カフェ、バー、ラーメン、惣菜、酒等

# ◆女子の方が「楽しさ」を感じているものが多い。「会って話す」「YouTube」等が「楽しさ」の上位に

図7 今何に「楽しさ」を感じているか (複数回答)

*今年から選択肢に追加		21年卒	20年卒
男子			
1位	会って話す	39.3%	44.2%
2位	YouTube、動画鑑賞*	37.9%	-
3位	ゲーム	29.3%	33.6%
4位	恋愛、彼氏・彼女と会うこと*	28.3%	-
5位	SNS(Instagram、Twitterなど)を見る	26.3%	23.0%
6位	旅行	22.0%	25.9%
7位	サークル・部活動	21.5%	24.4%
8位	音楽鑑賞	19.4%	27.0%
9位	食事	19.2%	24.2%
10位	映画鑑賞	18.5%	23.2%
女子			
1位	会って話す	51.0%	57.7%
2位	SNS(Instagram、Twitterなど)を見る	42.1%	38.8%
3位	YouTube、動画鑑賞*	38.2%	-
4位	旅行	36.2%	39.5%
5位	食事	35.5%	40.6%
6位	睡眠	33.5%	38.3%
7位	恋愛、彼氏・彼女と会うこと*	33.2%	-
8位	音楽鑑賞	32.6%	38.7%
9位	メイク・化粧	27.7%	28.0%
10位	コンサート、ライブ*	27.4%	-

図8 誰と一緒にいるときに最も「楽しさ」を感じるか

		21年卒	20年卒
男子			
1位	友達と2・3人有的时候	45.2%	46.2%
2位	彼氏彼女と一緒にいるとき	20.3%	20.2%
3位	大勢の友達と一緒にいるとき	14.4%	11.1%
4位	一人でいるとき	9.8%	9.9%
5位	家族と一緒にいるとき	5.1%	5.8%
女子			
1位	友達と2・3人有的时候	44.1%	43.8%
2位	彼氏彼女と一緒にいるとき	21.7%	22.7%
3位	家族と一緒にいるとき	14.4%	14.4%
4位	一人でいるとき	8.0%	7.8%
5位	大勢の友達と一緒にいるとき	7.1%	6.9%

サブスクのサービスを24種類挙げて、それぞれ「利用したことがある」か、「やってみたい」か聞いた。「利用したことがある」では、男子では「動画配信」が最も多く47.0%、次がほとんど差がなくて「音楽配信」46.9%、かなり差が開いて「ゲーム」28.7%、「雑誌、書籍、電子書籍」20.3%、「洋服」13.3%が続いた。女子では「音楽配信」が最も多く48.8%、次が「動画配信」41.6%、やはり差が開いて「雑誌、書籍、電子書籍」18.8%、「ゲーム」13.0%、「洋服」9.9%となった。「動画配信」「音楽配信」は男女とも利用率が4割を超えているが、他のサービスはまだそれほど普及していないようだ。

「利用したことがある」割合に「やってみたい」割合を加えて、今後普及していきそうか見てみたところ、男子では上位4つは変わらなかったが、5位に「飲食」(38.5% ※「利用したことがある」と「やってみたい」の合計。以下同)が入った。一方女子では、上位3つは変わらなかったが、4位に「洋服」(42.9%)、5位に「コスメ」(38.8%)が入った。「洋服」は男子の方が利用率は高いが、「やってみたい」を加えると女子の割合が上回った。「コスメ」は女子の利用率は7.7%(11位)に過ぎないのだが、「やってみたい」割合が高かった。これらのサービスは今後普及するスピードが早いかもしれない。

40の選択肢から今「楽しさ」を感じているものをすべて選んでもらったところ、男女とも前年同様「会って話す」が最も多く選ばれた。男子より女子の方が割合が高く、女子では半数を超えた(男子39.3%、女子50.1%)。

男女ともに「楽しさ」を感じている割合が高かったのは、「YouTube、動画鑑賞」(男子2位、女子3位)、「SNS(Instagram、Twitterなど)を見る」(男子5位、女子2位)、「恋愛、彼氏・彼女と会うこと」(男子4位、女子7位)、「旅行」(男子6位、女子4位)などだった。

男女別のトップ10を見ると、特に男子の方が順位が高かったのは、「ゲーム」(男子3位、女子15位)、「サークル・部活動」(男子7位、女子16位)の2つだった。特に女子の方が順位が高かったのは、「食事」(女子5位、男子9位)、「睡眠」(女子6位、男子11位)、「メイク・化粧」(女子9位、男子40位)、「コンサート、ライブ」(女子10位、男子23位)だった。

選択した割合を男女で比較すると、40の選択肢のうち男子の方が割合が高いのは14、女子の方が割合が高いのは28だった。選択した数の平均でも、男子の5.2に対し、女子は6.9で多かった。女子の方が男子より「楽しいと感じていること」が多いようだ。

誰と一緒にいるときに最も「楽しさ」を感じるかは、男女とも前年同様「友達と2・3人有的时候」が最多で、2位も前年同様、男女とも「彼氏彼女と一緒にいるとき」だった。「大勢の友達と一緒にいるとき」が男子の割合が高く、「家族と一緒にいるとき」が女子の割合が高いのも、前年同様となった。

# ◆ 定期的なアルバイトをしている割合は8割を超え過去最高

図9 定期的なアルバイトをしている割合

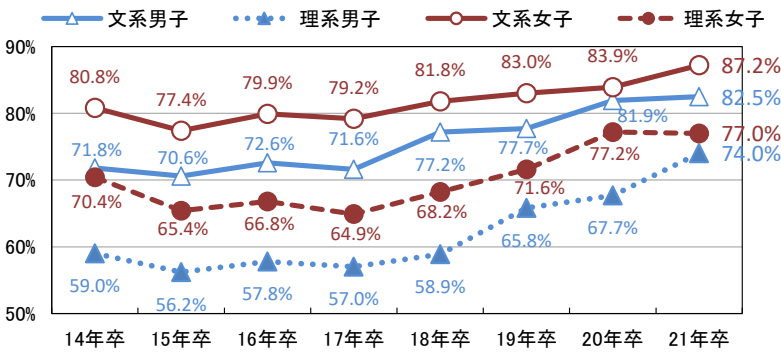


図10 ブラックバイト経験

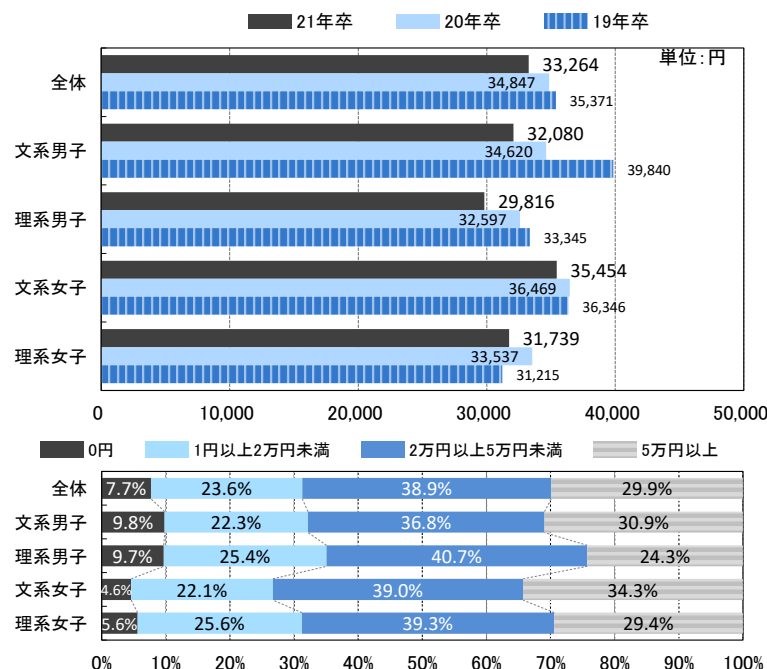
	全体	男子	女子
希望していないのにシフトを減らされた	11.8%	10.1%	14.2%
希望していないのにシフトを増やされた	11.7%	11.4%	12.0%
労働時間が6時間を超えるにも関わらず休憩時間がなかった	11.5%	9.6%	14.1%
本来であれば社員が行うべき仕事をさせられた	11.1%	9.9%	12.6%
希望していないのに長時間労働をさせられた	11.0%	11.3%	10.6%
サービス残業やサービス労働をさせられた	10.5%	9.8%	11.5%
パワハラがあった	6.6%	6.3%	7.0%
辞めたいのに辞めさせてもらえない	5.7%	4.7%	6.9%
仕事に使うものを実費で買わされた	4.9%	3.8%	6.3%
割り増し賃金が支払われなかった	3.3%	3.0%	3.8%
古株のバイトにいじめられた	2.9%	2.3%	3.7%
最低賃金を下回っていた	2.7%	2.1%	3.5%
過酷なノルマを強いられた	1.8%	2.0%	1.7%
(売れ残りの商品等の)買い取りを強制させられた	1.3%	1.5%	1.1%
労災保険に加入できなかった	1.0%	0.9%	1.2%

# ◆ 1ヶ月に自由に使えるお金の平均は3万3,264円で前年より1千6百円ほど減少

図11 アルバイトで稼いだお金を何に使っているか (複数回答)

男子		女子	
1位 ふだんの食事	63.5%	1位 交際(飲み会等を含む)	66.0%
2位 交際(飲み会等を含む)	54.3%	2位 ふだんの食事	63.2%
3位 ショッピング	39.9%	3位 ショッピング	59.9%
4位 交通費、定期代	33.5%	4位 旅行	43.7%
5位 日用品	28.6%	5位 交通費、定期代	40.2%
6位 旅行	27.8%	6位 日用品	39.1%
7位 本、書籍	23.7%	7位 美容(エステ、ネイル、散髪等)	37.9%
8位 彼氏・彼女・友達等へのプレゼント	22.7%	8位 コンサート、ライブ	31.9%
9位 映画、音楽	22.6%	9位 彼氏・彼女・友達等へのプレゼント	31.1%
10位 部活・サークル	20.8%	10位 映画、音楽	29.9%

図12 1ヶ月に自由に使えるお金の平均および分布



定期的なアルバイトをしている割合は全体で80.9% (前年比2.5pt増) と8割を超え、4年連続増加し調査開始の14年卒以来の過去最高を更新した。文理男女では理系男子の割合が大きく増加し (74.0%、前年比6.3pt増) 調査開始以来初めてすべての分類で7割を超えた。

いわゆる「ブラックバイト」について調べるため、それに該当する内容を15パターン挙げて、それぞれ経験したことがあるか聞いた。経験した学生の割合が1割を超えたのは、そのうち6パターンだった。「シフトに関するものが最も多く、「希望していないのにシフトを減らされた」が11.8%、「希望していないのにシフトを増やされた」が11.7%とほぼ同じくらいの割合だった。男子では「増やされた」がやや多かったのに対し、女子では「減らされた」の方が多かった。労働時間に関するものも比較的经验者が多く、それぞれ「労働時間が6時間を超えるにも関わらず休憩時間がなかった」が11.5%、「希望していないのに長時間労働をさせられた」が11.0%、「サービス残業やサービス労働をさせられた」が10.5%だった。残りの1つは「本来であれば社員が行うべき仕事をさせられた」の11.1%で、人手不足を伺わせるエピソードだ。

アルバイトで稼いだお金の使い道では、男子は「ふだんの食事」(63.5%)、女子は「交際(飲み会等を含む)」(66.0%)が1位だった。男女差が大きいもので、男子の方が割合が高いのは「ゲーム」(男子 18.9%、女子 8.6%)くらいで、他の多くは女子の方が割合が高い。特に「ショッピング」(男子 39.9%、女子 59.9%)、「旅行」(男子 27.8%、女子 43.7%)、「美容(エステ、ネイル、散髪等)」(男子 6.6%、女子 37.9%)では大きな差があった。

1ヶ月に自由に使えるお金の金額を聞いたところ、全体の平均は3万3,264円で2年連続で減少した(前年比1,583円減)。文系の方が理系よりやや多く、女子の方が男子よりやや多い。

投資をしているかどうか聞いたところ、「やっている」と答えたのは男子9.4%、女子1.8%で男子の方が女子よりかなり多い。投資をしている目的・理由では、「トレーダーを目指して」は男子全体の0.6%と少数派で、「勉強のために」が男子全体の4.4%と比較的多かった。やってみたい学生(男子全体の30.9%、女子全体の18.5%)では、男子では「就職したら」(15.1%)、女子では「勉強になりそうだから」(7.5%)が多かった。「やってないし、興味もない」学生は男子では半数以下(44.8%)で、女子では3人に2人(66.2%)だった。投資に対する考え方を自由記述で聞いたところ、男子では「リスクがある」「勉強しないと損をする」、女子では「よくわからない」「こわい」という回答が多く見られた。

図13 投資をしているか、やってみたいと思うか

	全体	男子	女子
やっている	6.2%	9.4%	1.8%
やってみたい	25.5%	30.9%	18.5%
興味がある	14.2%	14.6%	13.6%
やってないし、興味もない	54.0%	44.8%	66.2%
その他	0.2%	0.3%	0.1%

# ◆結婚後「共働きを望む」割合は過去最高、女子74.3%、専業主婦志向は男女で過去最低

図14 結婚後の仕事に関してどのように考えているか

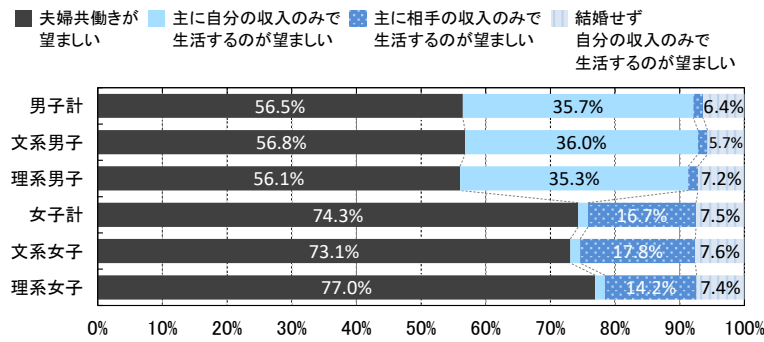


図15 共働き志向の推移

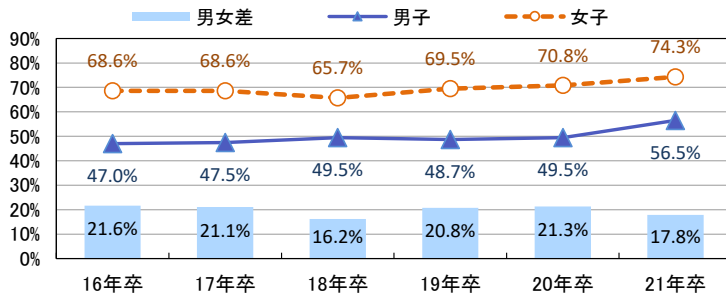
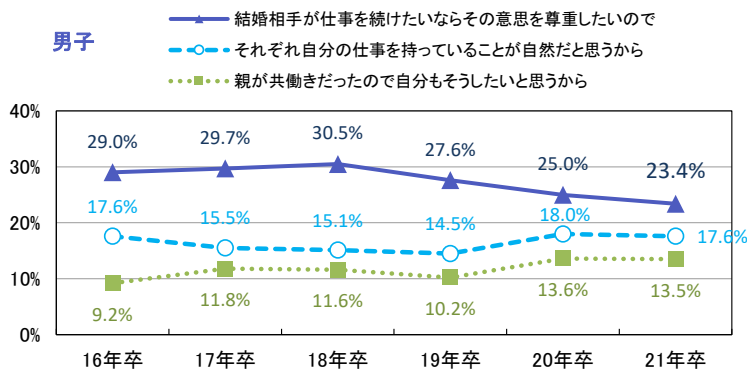


図16 共働きが望ましい理由の推移 (男女別、抜粋)

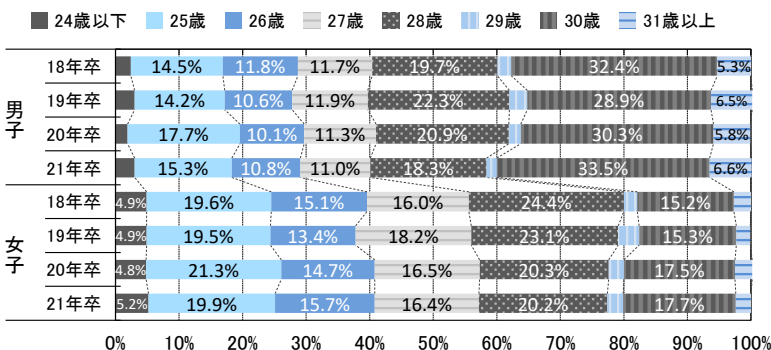


## 女子

	16年卒	17年卒	18年卒	19年卒	20年卒	21年卒
それぞれ自分の仕事を持っていることが自然だと思うから	14.6%	14.8%	14.6%	14.8%	15.2%	15.2%
一方の収入だけでは生活できないから	17.2%	15.7%	17.1%	14.6%	14.5%	14.9%
自分が自由に使えるお金がある程度持っていたいから	11.0%	12.0%	12.8%	14.0%	13.1%	14.9%
仕事を続けることが生きがいになると思うから	24.9%	22.3%	19.5%	19.4%	17.8%	14.7%

# ◆結婚したい年齢の平均は男子28.4歳、女子27.2歳。平均初婚年齢よりも早い結婚を希望

図18 結婚をするならば、何歳ごろにしたいか



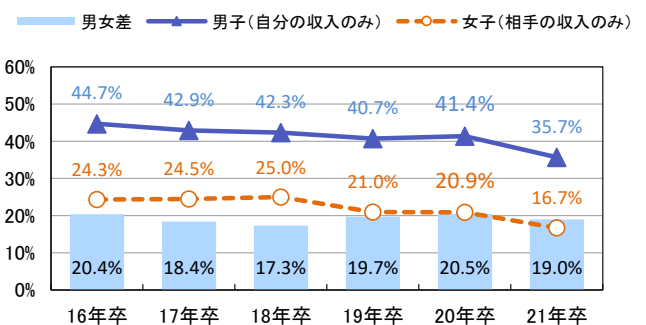
結婚後の仕事に関しての考えを聞いたところ、「夫婦共働き」を希望する割合は、男子 56.5% (前年比7.0pt増)、女子 74.3% (前年比3.5pt増) で男女とも増加し、ともに16年卒の調査開始以来、最多だった。男子で半数を超えたのは調査開始以来初めてだ。

「共働きが望ましい」と考える理由では、男子の最多の「結婚相手仕事を続けたいならその意思を尊重したいので」は3年連続で減少した(23.4%、前年比1.6pt減)。女子では調査開始以来ずっと最多だった「仕事を続けることが生きがいになると思うから」(14.7%、前年比3.1pt減)の割合を「それぞれ自分の仕事を持っていることが自然だと思うから」(15.2%、前年比増減なし)、「一方の収入だけでは生活できないから」(14.9%、前年比0.4pt増)、「自分が自由に使えるお金がある程度持っていたいから」(14.9%、前年比1.8pt増)がそれぞれわずかに上回った。

男子の「主に自分の収入のみで生活するのが望ましい」と女子の「主に相手の収入のみで生活するのが望ましい」を専業主婦志向として定義すると、男女とも大きく減少し、男子で調査開始以来初めて4割を切り(35.7%、前年比5.7pt減)、女子で初めて2割を切った(16.7%、前年比4.2pt減)。男女差の経年変化を見ると、男子の「配偶者が専業主婦になることを希望する」割合が女子の「自らが専業主婦になることを希望する」割合より2割程度高い状態が6年間継続している。

また、男子が「主に自分の収入のみで生活するのが望ましい」を選んだ理由で最も高いのは、前年同様「結婚相手には苦勞をかけたくない(楽をしてほしい)から」(33.6%、前年比2.0pt減)だった。女子の「主に相手の収入のみで生活するのが望ましい」を選んだ理由で最も高いのは前年同様「家事や子育てに専念したい」(44.6%、前年比3.2pt減)だった。

図17 専業主婦志向の推移

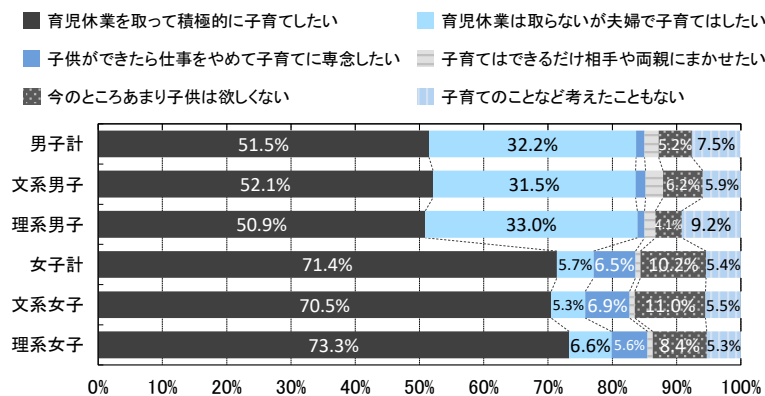


結婚を希望する人に、結婚をするなら何歳頃にしたいか聞いたところ、男子の平均は28.2歳、女子の平均は27.3歳だった。3年前からの推移は男子28.2歳→28.3歳→28.2歳→28.4歳、女子27.3歳→27.3歳→27.3歳→27.2歳でほとんど変わっていない。厚生労働省の調査(2018年人口動態統計)によると、平均初婚年齢は夫31.1歳、妻29.4歳で、実情よりも平均で2、3年早く結婚したいと考えているようだ。年齢別の回答割合では、男子で「30歳」の割合が増加した(33.5%、前年比3.2pt増)。



# ◆「育児休業をとって積極的に子育てしたい」男子の割合は5年連続増加で初の5割超

図19 子育てについて、あなたの考えに近いもの



子育てについての考えを聞いたところ、「育児休業を取って積極的に子育てしたい」と回答した割合は、男子は51.5%（前年比7.9pt増）、女子は71.4%（前年比5.4pt増）男女とも大きく増加し、男子では14年卒の調査開始以来初めて半数を超えた。経年の推移を見ると、男子の割合は16年卒以降5年連続で増加している。男女差は19.9%で調査開始以来最小値だった。

子育てについて前向きな回答をした学生に、子供は何人欲しいか聞いたところ、男子の平均は2.24人、女子の平均は2.10人だった。1人と回答したのは男子9.5%（前年比1.6pt増）女子9.1%（前年比0.4pt増）、2人と回答したのは男子67.7%（前年比2.1pt増）女子71.2%（前年比1.5pt増）でそれぞれ前年よりわずかに増加した。一方、3人と回答したのは男子18.8%（前年比3.9pt減）女子17.7%（前年比1.7pt減）でそれぞれ前年より減少した。育児休業取得に対して積極的な学生が増えた一方、欲しい子供の数はわずかに減る傾向にある。

図20 「育児休業をとって積極的に子育てしたい」の割合推移

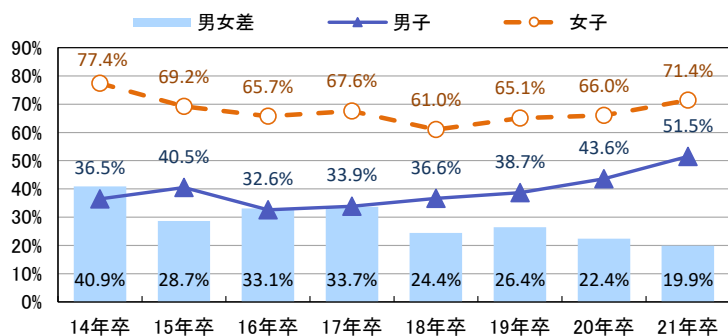
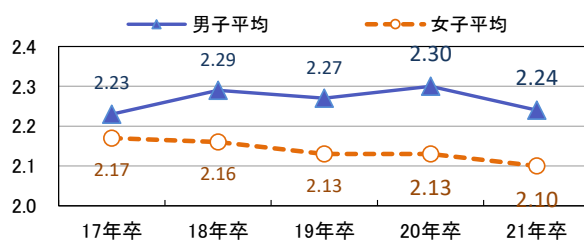
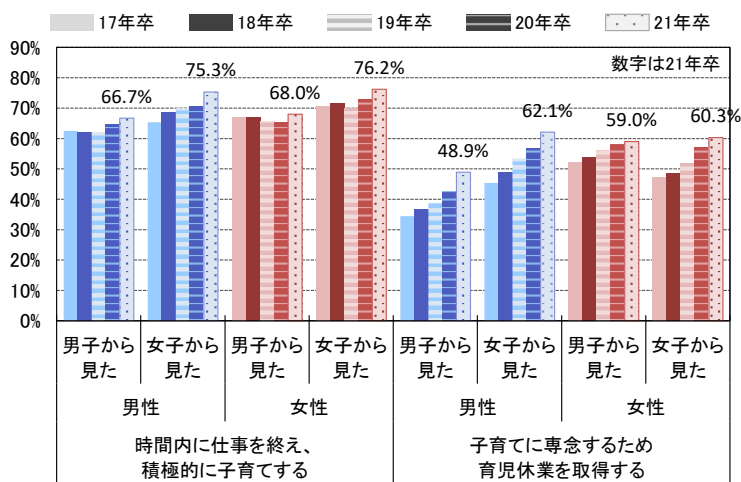


図21 子供は何人欲しいか・平均人数の推移 (単位: 人)



# ◆「育児休業を取得する」男性を「すごくかっこいい」と感じる女子は4年連続で増加

図22 育児に関する働き方の印象 (「すごくかっこいい」の割合)



社会人の働き方における「残業」「育児休業」という側面において、それぞれ学生がどのように感じているのかを、「同性の社会人」「異性の社会人」それぞれについて調査した。

### <働き方の例>

- ◇ 時間内に仕事を終え、積極的に子育てする
- ◇ 子育てに専念するため育児休業を取得する
- ◇ 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている
- ◇ 時間内に仕事を終え、一切残業しない

### <選択肢>

- 「すごくかっこいい」「まあまあかっこいい」「どちらとも言えない」「あまりかっこよくない」「かっこわるい」
- ※「すごくかっこいい」と回答した割合をグラフ化

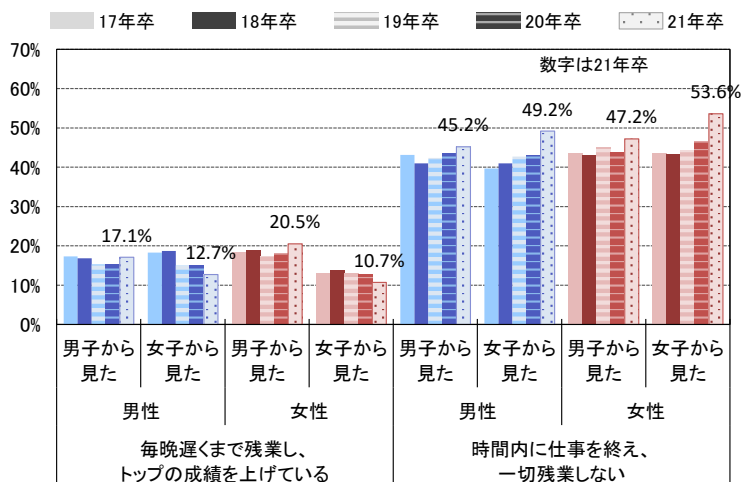
育児に関する働き方の印象について聞いたところ、「時間内に仕事を終え、積極的に子育てする」男性を女子が「すごくかっこいい」と感じる割合は、4年連続で増加した。また「子育てに専念するため育児休業を取得する」男性・女性を「すごくかっこいい」と感じる男子・女子の割合は、すべての組み合わせで4年連続増加した。特に「子育てに専念するため育児休業を取得する」男性を女子が「すごくかっこいい」と感じる割合

(62.1%)は、「子育てに専念するため育児休業を取得する」女性を女子が「すごくかっこいい」と感じる割合(60.3%)を初めて上回った。

厚生労働省の調査によると、2018年度の男性の育児休業取得率は6.16%（前年比1.02pt増、平成30年度雇用均等基本調査）とわずかに増加している。

残業に関する働き方の印象については、「毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている」を男子から見て「すごくかっこいい」と感じる割合は前年より増加したが、女子から見て「すごくかっこいい」と感じる割合は前年より減少した。「時間内に仕事を終え、一切残業しない」を「すごくかっこいい」と感じる割合は男女とも増加した。

図23 残業に関する働き方の印象 (「すごくかっこいい」の割合)



## ◆就職したら「一人暮らし希望」54.9%。就職したら「彼氏・彼女・配偶者と住む」7.5%

図24 現在は親と同居か、一人暮らしか、と、就職後の希望

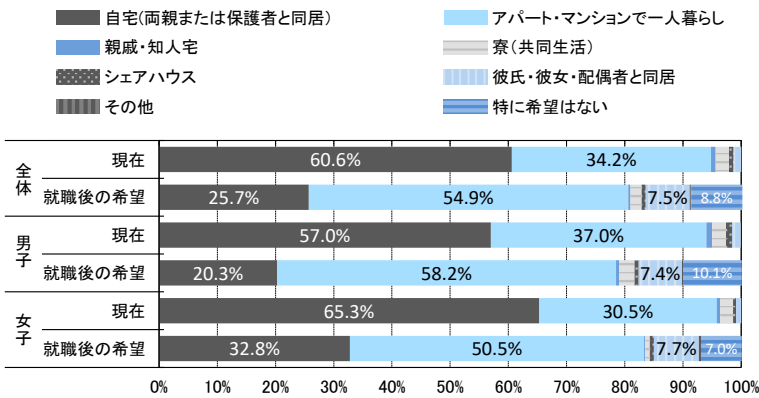
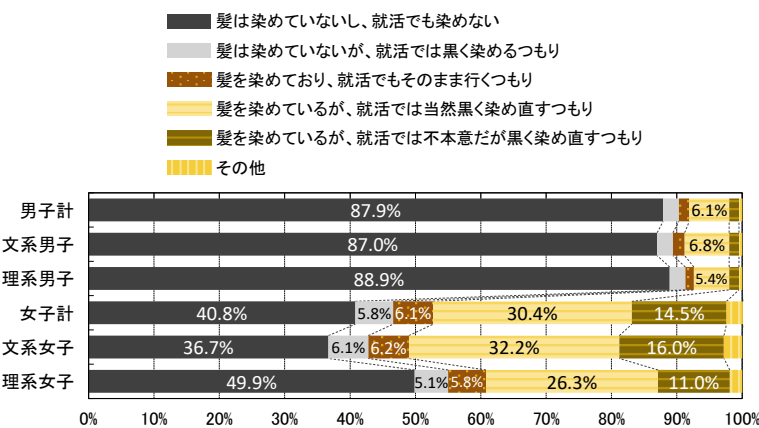


図25 親と同居、一人暮らし、彼氏・彼女と同居を、それぞれ希望した最大の理由

理由	全体	男子	女子
1位 貯金したいから	31.6%	39.1%	29.4%
2位 安心だから、一人暮らしは不安だから	16.3%	8.8%	18.5%
3位 家族と一緒にいたいから	15.1%	6.3%	17.8%
4位 生活費を節約したいから	14.5%	16.9%	13.8%
5位 奨学金を返すため	6.2%	8.1%	5.6%

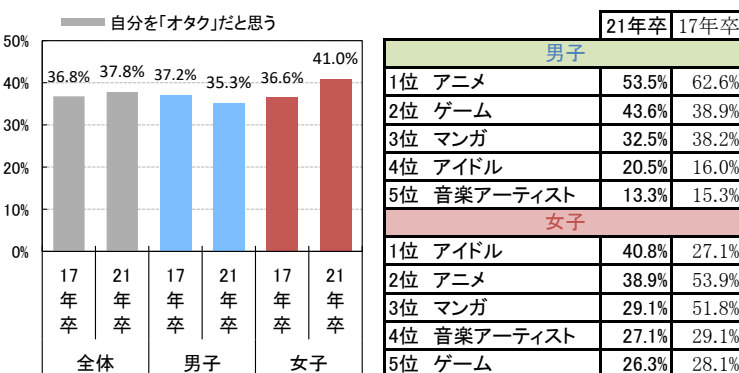
## ◆「就活では染めている髪を黒く染め直す」女子は44.9%。「不本意だが染める」は14.5%

図26 髪を染めているか、就活では黒く染め直すつもりか



## ◆「オタク」の割合は4年前と変わらないが、何の「オタク」か、は激変。アイドルオタク女子が急増

図27 自分を「オタク」だと思うか、また、何の「オタク」か (複数回答)



現在の住まいについて、「自宅（両親または保護者と同居）」か「アパート・マンションで一人暮らし」か、それ以外かを6つの選択肢を挙げて聞いたところ、「自宅（両親などと同居）」は60.6%、「一人暮らし」は34.2%だった。「自宅（両親などと同居）」の割合は女子の方が男子より高い。一方就職したらどうしたいか聞いたところ、「一人暮らし」が54.9%で「自宅（両親などと同居）」の25.7%を大きく上回った。就職を機に「一人暮らし」を始めたいという学生の割合はかなり高いと言える。また、「彼氏・彼女・配偶者と同居」を希望する割合は7.5%で（現在は1.3%）、就職を機に「二人暮らし」という学生もある程度いるようだ。

就職後、「自宅（両親または保護者と同居）」を希望する理由では、「貯金したいから」（31.6%）が最も高い割合だった。「貯金」や「生活費を節約したいから」「奨学金を返すため」などの経済的な理由を挙げる割合は男子の方が女子より高い。一方、「安心だから、一人暮らしは不安だから」や「家族と一緒にいたいから」は女子の方が割合が高く、男女でかなり違いが見られた。

就職後、「一人暮らし」を希望する理由では、「自立したい」（30.2%）の割合が最も高く、「一人が好きだから、一人の時間が欲しいから」（17.8%）、「自由があるから」（16.4%）がそれに続いた。こちらの理由は、男女差はあまり見られない。

就職後、「彼氏・彼女・配偶者と同居」を希望する理由では、そのものずばり「彼氏・彼女と暮らしたいから」（50.4%）が約半数だが、「結婚するから、結婚準備をするから」も20.4%存在する。女子では「安心だから、一人暮らしは不安だから」を挙げる学生が9.6%で、男子より多い。

「就活のために髪を黒く染める」ことがどれだけ行われるのか調べるため、「髪を染めているか」および「就活ではどうするか」について、5つの選択肢を挙げて聞いた。

男子では「髪は染めていないし、就活でも染めない」が87.9%と圧倒的多数だった。「髪を染めている」のは9.2%だった。

女子では「髪を染めている」が51.0%、「髪は染めていない」が46.6%で、やや「染めている」が多かったが、就活での対応が分かれた。「髪は染めている」女子では、「当然黒く染め直すつもり」が女子全体の30.4%で、「不本意だが黒く染め直すつもり」は14.5%と少数派だった。ただし、「就活でもそのまま行くつもり」も6.1%おり、染め直すのは不満だと考える女子は全体の2割を超える。なお「髪を染めていない」女子にも、目立つことを避けて「就活では黒く染めるつもり」が5.8%存在する。

自分を「オタク」だと思うか、および何の「オタク」かを、17年卒以来4年ぶりに聞いた。「オタク」の割合は全体で37.8%で、17年卒の36.8%とあまり変わらなかった。男子の「オタク」は減り（35.3%、17年卒比1.9pt減）、女子の「オタク」は増えた（41.0%、17年卒比4.4pt増）。「オタク」の人に何の「オタク」か聞いたところ、男子は1位「アニメ」、2位「ゲーム」、3位「マンガ」で4年前と同じだったが、女子は1位が「アイドル」で4年前と比較して急増した（40.8%、17年卒比13.7pt増）。

「オタク」エピソードを募集したところ、「全180話のアニメを3日で一気に見つけた」「マンガ喫茶で9時間読み続けた」「応援するアイドルのCD一作品を600枚買った」など、多くの強者が現れた。

## ◆文系女子の「就職活動における最大の武器」の1位は「コミュニケーション能力」、5位は「笑顔」

図28 就職活動におけるあなたの最大の武器

文系男子		21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位	サークル活動・部活動の経験	18.8%	19.2%	21.4%	21.0%	17.4%	19.1%
2位	コミュニケーション能力	17.8%	14.5%	13.9%	13.9%	10.2%	15.8%
3位	アルバイト経験	12.7%	11.5%	10.7%	13.5%	10.2%	9.1%
4位	忍耐力・粘り強さ	10.7%	10.9%	11.5%	12.9%	17.0%	14.0%
5位	行動力	9.7%	6.9%	8.9%	10.1%	9.6%	11.9%
理系男子		21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位	学校で学んだ専門知識	21.5%	23.7%	22.7%	20.6%	20.1%	22.3%
2位	コミュニケーション能力	14.1%	13.1%	12.7%	10.7%	12.6%	12.2%
3位	サークル活動・部活動の経験	12.5%	13.1%	14.4%	13.6%	16.0%	14.6%
4位	忍耐力・粘り強さ	12.2%	13.6%	12.4%	18.5%	16.9%	15.3%
5位	行動力	8.4%	6.9%	9.5%	8.3%	7.6%	8.6%
文系女子		21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位	コミュニケーション能力	16.2%	15.1%	14.3%	12.2%	12.5%	12.2%
2位	忍耐力・粘り強さ	13.3%	12.2%	14.8%	15.7%	17.9%	16.5%
3位	アルバイト経験	13.0%	11.9%	11.7%	14.6%	12.4%	12.8%
4位	サークル活動・部活動の経験	12.9%	14.8%	16.4%	14.6%	14.9%	16.0%
5位	笑顔	11.7%	12.4%	10.3%	12.4%	14.1%	12.1%
理系女子		21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位	コミュニケーション能力	17.1%	13.9%	13.6%	12.0%	7.5%	12.9%
2位	学校で学んだ専門知識	16.6%	16.5%	18.6%	19.5%	16.2%	15.1%
3位	忍耐力・粘り強さ	15.5%	15.1%	16.5%	17.9%	22.9%	19.1%
4位	サークル活動・部活動の経験	9.9%	11.2%	11.7%	10.8%	13.2%	11.5%
5位	アルバイト経験	9.6%	9.0%	5.5%	7.9%	7.2%	7.2%

「就職活動におけるあなたの最大の武器だと思ふもの」では、文系男子は「サークル活動・部活動の経験」（18.8%、前年比0.4pt減）の割合が6年連続で最も高く、文系女子は「コミュニケーション能力」

（16.2%、前年比1.1pt増）の割合が2年連続で最も高かった。理系男子は6年連続で「学校で学んだ専門知識」（21.5%、前年比2.2pt減）の割合が最も高かったが、理系女子は「コミュニケーション能力」

（17.1%、前年比3.2pt増）が3年連続トップだった「学校で学んだ専門知識」（16.6%、前年比0.1pt増）の割合を初めて上回ってトップとなった。

文理男女のトップ5を見ると、共通してランクインしているのは「サークル活動・部活動の経験」「コミュニケーション能力」「忍耐力・粘り強さ」の3つだった。「コミュニケーション能力」が最大の武器だという学生の割合はすべての分類で増加した。文系女子では「笑顔」が5位に入った

（11.7%、前年比0.7pt減）。

## ◆就職活動を恋愛にたとえると「自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する」

図29 あなたの就職活動を恋愛に例えたとどれに最も近いのか

男子		21年卒	20年卒	19年卒
1位	自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する	32.9%	34.1%	34.6%
2位	最愛の人を振り向かせるため自分を磨く	26.2%	22.1%	22.5%
3位	相手の気を引くため様々な作戦を試みる	11.8%	12.3%	11.3%
4位	誰にも愛されないのではという恐怖感にさいなまれる	5.3%	6.4%	6.2%
5位	魅力的な人が複数いるので目移りして困る	4.7%	4.5%	4.3%
女子		21年卒	20年卒	19年卒
1位	自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する	37.9%	38.0%	35.7%
2位	最愛の人を振り向かせるため自分を磨く	20.8%	18.7%	19.7%
3位	誰にも愛されないのではという恐怖感にさいなまれる	10.4%	10.1%	12.1%
4位	相手の気を引くため様々な作戦を試みる	8.2%	8.4%	8.5%
5位	最悪の相手を選ばないように用心深く振舞う	5.1%	6.1%	6.1%

「あなたの就職活動を恋愛に例えたとどれに最も近いのか」では、男女とも「自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する」の割合が6年連続で最も高かった（男子 32.9%、前年比1.2pt減；女子 37.9%、前年比0.1pt減）。2位は男女とも「最愛の人を振り向かせるため自分を磨く」だった（男子 26.2%、前年比4.1pt増；女子 20.8%、前年比2.1pt増）。男子の3位は「相手の気を引くため様々な作戦を試みる」（11.8%、前年比0.5pt減）、女子3位は「誰にも愛されないのではという恐怖感にさいなまれる」（10.4%、前年比0.3pt増）だった。

## ◆「あなたに欠けていると思うもの」、男女とも「自分の長所をアピールする力」が最多

図30 あなたに欠けていると思うもの（複数回答）

男子		21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位	自分の長所をアピールする力	35.8%	37.2%	40.7%	38.0%	42.4%	44.3%
2位	コミュニケーション能力	35.3%	37.8%	38.0%	34.8%	37.9%	36.5%
3位	友人関係の広いネットワーク	26.9%	28.0%	30.5%	28.5%	33.6%	33.0%
4位	行動力	25.2%	27.4%	27.1%	24.3%	28.5%	28.9%
5位	情報収集力	23.4%	25.7%	23.6%	17.5%	22.2%	22.8%
6位	ストレス耐性	21.4%	21.8%	21.6%	23.0%	22.4%	22.5%
7位	臨機応変に対応する力	18.8%	21.3%	22.5%	22.1%	22.0%	23.5%
8位	社会人になるための心の準備	18.2%	20.9%	24.6%	18.0%	20.2%	22.8%
9位	就活に対する「やる気」	16.3%	23.3%	20.3%	18.1%	18.1%	21.0%
10位	健康・体力	8.2%	8.9%	11.5%	-	-	-
この中に欠けているものはない		3.4%	2.6%	3.3%	3.0%	4.9%	3.3%
女子		21年卒	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位	自分の長所をアピールする力	42.1%	45.0%	46.4%	42.9%	47.7%	47.7%
2位	コミュニケーション能力	33.6%	37.0%	37.8%	37.4%	38.3%	37.7%
3位	友人関係の広いネットワーク	30.8%	31.2%	34.6%	31.7%	36.7%	39.6%
4位	ストレス耐性	29.3%	28.2%	29.5%	28.6%	29.8%	28.4%
5位	情報収集力	26.9%	25.5%	28.1%	23.4%	25.9%	28.7%
6位	行動力	24.9%	27.6%	28.9%	26.0%	28.5%	30.4%
7位	臨機応変に対応する力	23.6%	22.1%	26.3%	25.2%	28.2%	28.2%
8位	社会人になるための心の準備	23.1%	26.1%	30.7%	23.9%	25.8%	25.3%
9位	就活に対する「やる気」	20.1%	25.5%	26.3%	23.3%	23.5%	25.2%
10位	健康・体力	11.6%	13.3%	15.7%	-	-	-
この中に欠けているものはない		1.9%	1.3%	1.4%	1.6%	1.3%	1.6%

「あなたに欠けていると思うもの」では、女子は6年連続、男子は前年2位前々年1位からの返り咲きで「自分の長所をアピールする力」（女子 42.1%、前年比2.9pt減、男子35.8%、前年比1.4pt減）の割合が最も高かった。「コミュニケーション能力」が欠けている割合は男女とも2位だった（女子33.6%、前年比3.4pt減、男子35.3%、前年比2.5pt減）。最大の武器が「コミュニケーション能力」という学生も多いため、就職活動において差が付きやすい属性だと言えそうだ。

前年との比較で最も大きな変化は、男女とも「就活に対するやる気」が欠けている学生の割合が大幅に減ったことだ（女子20.1%、前年比5.4pt減、男子16.3%、前年比7.0pt減）。

男女差が大きいのは、「ストレス体制」（女子 +7.9pt）、「自分の長所をアピールする力」（女子 +6.3pt）、「社会人になるための心の準備」（女子 +4.9pt）で、いずれも女子の方が欠けている割合が高くなっている。欠けているものの数の平均は男子が2.3、女子が2.7で、女子の方がやや多かった。